

【資料編】

《家庭内で防災会議》

★^テ^イ^グDIG訓練★

DIG は、参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練です。

Disaster（ディザスタ：災害）、Imagination（イマジネーション：想像力）、Game（ゲーム）の頭文字を取って命名されました。DIG という単語は「掘る」という意味を持つ英語の動詞でもあり、転じて、探求する、理解するといった意味をもっています。このことから、DIG という言葉には、「災害を理解する」「まちを探求する」「防災意識を掘り起こす」という意味も込められています。

地図をみんなで囲み、災害が起きたことをイメージして避難経路や家庭内や近所の課題に気づくためのゲームをしておきましょう。

1 準備するもの

- ☐ 地図（ハザードマップ、タウンマップなど）
- ☐ 透明シート（なければ地図のコピー） ☐ カラーマジック（8色程度）
- ☐ 付せん紙 ☐ セロテープ ☐ はさみ ☐ 模造紙
- ☐ 丸形カラーシール（複数色、なければマジックで代用）

2 見える化

〔自然条件やまちの構造〕

- ① 川や水路を青色で線を引く。
- ② 地震の揺れの大きな範囲を赤線で、液状化しやすい範囲を水色で、ハザードマップで確認しながら、書きこむ。
- ③ 鉄道を黒色、主要道路（2車線以上）を茶色でなぞる。
- ④ 狭い道路（消防車が入れない、4m未満）をピンク色でなぞる。
- ⑤ 広場、公園などのオープンスペースを緑色で書く。
- ⑥ 延焼を防ぐような鉄筋コンクリート造の建物の輪郭を紫色で囲む。

〔地域資源〕

- ⑦ 官公署・消防・警察を赤、医療機関を緑、学校・公民館など避難場所を青のシールを貼る。
- ⑧ コンビニ・スーパーや消火栓・プールなど防災に役立つ施設をそれぞれシールを貼る。
- ⑨ 危険物施設やブロック塀など倒壊すると危険な場所を黄色で明示する。
- ⑩ 地域で頼りになる人（自治会役員や消防団、工事関係者など）や要援護者（1人暮らしの高齢者、障がい者など介護が必要な人、乳幼児を抱えた家庭など）の家にも印を付ける。

3 リスクや課題を話し合う

- ・ 出来あがった地図を囲んで、危険な場所や注意が必要な場所を把握し、避難経路を話し合う。
- ・ 災害時に活用できる場所や人を把握するなどの情報を共有する。
- ・ 話し合ったことや発見・気づいたこと、アイデアなどは付せん紙に書きとめ、貼り付ける。